

## 十九夜様 (じゅうくやさま)

十九夜様は、女性の守り神です。19日に地域の人たちが集まって十九夜様をまつり、地域内の女性の安産を祈った風習で、今も続いているところもあります。県内には、各地に十九夜様の石仏を見ることができます。



十九夜様

(昭和46年宇都宮市岡本)

柏村祐司氏撮影 県立博物館提供)

## ～とちぎ人の想い～

私の地区では、年に一度ですが、ふたまたの杉の木を塔婆(祈りの文字が書かれたもの)にして、酒、米、削り節、塩、線香といっしょに十九夜様にあげます。昔は女性だけの参加でしたが、今は、男女の別はなく、地域の各家に参加が呼びかけられます。これからお産する人たちの無事を地域のみなさんで祈るものであり、これからも続いてほしいです。

## 〈十九夜様の説明〉

月の満ち欠けが約30日で1周するので、昔は月の動きに合わせて1か月間を決めていました(旧暦という)。

そのため、月と人々の生活の関係は深く、月に願いや感謝の思いを込めた行事を行ってきました。

栃木県内では、旧暦の十九日は、回り番の当番の家に地域の女性が集まって安産を願いました。そのなかで、「十九夜様の石仏の前に供え物をする」、「まつる場所に塔婆を立てて祈る」、「月が出るまで念仏を唱え、飲んだり食べたりする」などしました。

「十九夜様」は、日ごろから家事や子育て、農作業に忙しかつた女性たちの楽しみとして、飲んだり食べたり、世間話に花を咲かせたりした日でもありました。



地域の人たちが語り合い、絆を深めた行事だったまるね。